

小学校第4学年 社会科学習指導略案(1時目)

指導者 教育センター所員 合瀬 一幸

1 単元名 「事故や事件から暮らしを守る」(東京書籍3・4下pp.20～31)

2 本時の目標

いつ、自分も交通事故にあってもおかしくないとの意識をもち、事故や事件から安全を守るしくみや働きに関心をもち、学習問題を考えるようとしている。(社会的事象への関心・意欲・態度)

3 展開(全10時間 本時 1/10)

学 習 活 動	教師の働き掛け(○)と評価【】
1 緊急車両のサイレンの音や交通事故の写真などから本単元の内容について予想し、本時のめあてを考える。 〈個人・学級全体〉	○ 緊急車両のサイレンの音を聞かせることで、生活経験や既知の知識から事故や事件を学ぶことに気付かせる。 ○ 既習の火災と区別させるために、写真を提示し、火災、事件、事故について、児童の言葉で整理させ、暮らしを守る対象について、交通事故に絞り込む。
めあて 交通事故について調べ、わかったことをもとに学習問題を考えよう。	
2 自分が「ひやっ」とした時の経験を振り返り、それらを整理して分かったことを話し合う。 〈個人・学級全体〉	○ 自分たちも被害者や加害者になり得ることを自覚させるために、自身の経験から、交通事故の原因等について話し合わせる。
3 佐賀市ではどうかを具体的な統計資料から読み取り、疑問に思ったことやもっと知りたいことを考え、学習問題をつくる。 〈個人・学級全体〉	○ 佐賀市の交通事故発生件数が減ってきていることに気付かせることで、なぜ、減ってきているのかを考えさせる。これにより、警察官や地域の人、自分たちの心掛けなどを予想させることで学習問題Iへと導く。 ○ いつ、自分も交通事故にあってもおかしくないとの意識をもち、事故や事件から安全を守るしくみや働きに関心をもち、学習問題を考えることができているか。【評価】
学習問題I 事故や事件から暮らしを守るために、だれがどのようなことをしているのでしょうか。	
4 本時の振り返りとして、学習問題について、自分なりに予想する。 〈個人〉	○ 自分の生活経験や既知の知識から自分なりの予想をさせる。また、これを基に、次時において調べる計画を立てることを知らせる。

4 本時の評価

評価規準	いつ、自分も交通事故にあってもおかしくないとの意識をもち、事故や事件から安全を守るしくみや働きに関心をもち、学習問題を考えることができているか。 (社会的事象への関心・意欲・態度)		
判断のめやす (判定基準)	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)
	佐賀市の交通事故発生件数が減っている原因について、根拠を基に予想や疑問などが書けている。	佐賀市の交通事故発生件数が減っている原因について、予想や疑問などが書けている。	(B)に達していない記述
→(B),(C)と判断した児童への支援		→どうしてそう考えたのかを詳しく書くように指示する。	→火災の学習や登校の時に世話になっている人などを想起させ、予想させる。
評価方法	ワークシートの記述		

小学校第4学年 社会科学習指導略案(2時目)

指導者 教育センター所員 合瀬 一幸

1 単元名 「事故や事件からくらしを守る」(東京書籍3・4下pp.20～31)

2 本時の目標

学習問題の解決に向けて、自分なりの予想を出し合い、予想を生かしてこれからの調査活動への見通しを考え、表現することができる。(社会的な思考・判断・表現)

3 展開(全10時間 本時2/10)

学 習 活 動	教師の働き掛け(○)と評価【】
1 学習問題Iを確認し、解決に向けて学習計画を立てることをめあてとする。 (学級全体)	○ 前時のワークシートの振り返りの記述を基に、調査活動に対して意欲が高い児童を意図的に紹介し、全体の意欲付けを図る。 ○ 学習問題に至った経緯を、全体で確認することで、学習問題を改めて捉えさせ、めあてへと導く。
めあて 学習問題Iについてよそうを出し合い、調べることを考えよう。	
2 学習問題Iに対する予想を考える。 (個人, グループ, 学級全体)	○ 前時に、自分なりの予想を立てた児童もいるが、グループで予想を出し合わせる。関係のある人、見たことがある事柄などを基に予想を立てるように声を掛ける。 ○ 自分たちが被害者になることから考える児童が多いことが予想されるため、「自分が事故を起こすことがないか?」「もし、起こしたらどうするか?」と問いかけ、加害者になることも想定させる。
3 予想を出し合い、調べないと分からないことや確認することを決める。 (学級全体)	○ 全体で予想を出させ、事故が増えているところから事故の原因、事故が減っているところから事故が起きないようにする工夫の2点で分類していく。また、事故が起きたらと問い掛け、3点に分け、学習問題Iに立ち戻らせながら予想を整理する。これにより、調べないと分からないこと、予想はできたが確認しないといけないことなどを導き出し、学習計画を決める。
4 本時の振り返りをする。 ポイント: 自分が一番調べたいこと その理由, 調べ方 (個人)	○ 調べることが決まったら、自分が一番調べたいことを考えさせ、その理由や調べ方を考えさせることにより、調べ活動への意欲付けを行う。 【評価】

4 本時の評価

評価規準	学習問題の解決に向けて、自分なりの予想を出し合い、予想を生かしてこれからの調査活動への見通しを考え、表現することができるか。(社会的な思考・判断・表現)		
判断のめやす (判定基準)	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)
	調べることの中から、自分が一番調べたいことを考え、理由付けと調べる方法を表現することができる。	調べることの中から、自分が一番調べたいことを考え、理由付けとともに表現することができる。	(B)に達していない記述
→(B), (C) と判断した児童への支援		→調べる方法をワークシートの資料から選ばせる。	→板書を基に、調べることを確認し、自分が調べたいことを選ばせ、どうしてそれにしたのかを問い、記述させる。
評価方法	ワークシートの記述		

小学校第4学年 社会科学習指導略案(3時目)

指導者 教育センター所員 合瀬 一幸

1 単元名 「事故や事件からくらしを守る」(東京書籍3・4下pp.20～31)

2 本時の目標

配布資料や教科書などから警察の仕事について調べ、分かったことや考えたことを基に、見学の際に確かめることを決めることができる。 (資料活用の技能)

3 展開(全10時間 本時3/10)

学 習 活 動	教師の働きかけ(○)と評価【】
1 前時の振り返りから本時のめあてを決める。 (学級全体)	○ 前時の振り返りを紹介し、警察官の仕事に関する疑問が多かったことから、本時のめあてへ導く。
めあて 警察官の仕事について調べ、警察署見学で確認したいことを決めよう。	
2 事故が起きたとき、どんな仕事をしているのかを調べる。 ・通信指令室からの連絡 ・けがをした人のために ・道路の安全を守るために ・事故の原因を調べるために (個人・学級全体)	○ 交通事故の原因に関心をもった児童が多いため、交通事故が起こったら、どんな仕事をしているのかを調べさせる。 ○ 警察署へ見学に行くことで、本物との出会いがあるため、確認できる内容を絞り込んでおく。また、工夫や努力へと結び付けられるように、目的や警察官の思いについて問い掛けておくことで、見学の必然性を感じさせる。
3 普段の警察の仕事について調べる。 (個人・学級全体)	○ 交通事故の主な原因から、注意不足や法やきまりを守っていないことに着目させ、普段から事故や事件が起きないように活動していることを調べさせる。 ○ 警察署へ見学へ行く際に確認できるように、警察官の仕事への思いを予想させておく。 ○ 調べる活動は、個人で調べることを苦手としている児童がいるため、状況に応じてグループ活動や学級全体での資料の読み取りを取り入れる。
4 本時の振り返りとして、見学の際に確かめることを決める(個人)	○ 本時の学習を振り返らせ、分かったことと見学して確かめたいことを記述させる。【評価】 ○ 配布資料や本から警察の仕事について調べ、分かったことや考えたことを基に確かめることを決めさせる。

4 本時の評価

評価規準	配布資料や本から警察の仕事について調べ、分かったことや考えたことをもとに、見学の際に確かめることを決めることができているか。 (資料活用の技能)		
判断のめやす (判定基準)	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)
	見学で確かめたいこととその理由及び疑問をもって解決しようとしている記述ができている。	見学の際に確かめたいこと若しくは疑問をもって解決しようとしている記述ができている。	(B)に達していない記述
		→どうしてそう考えたのかを詳しく書くように指示する。	→板書やノートを基に、確かめたいことを選ばせ、記述させる。
評価方法	ワークシートの記述		

※4時目は見学の時間に充てます。

小学校第4学年 社会科学習指導略案(5時目)

指導者 佐賀県教育センター 合瀬 一幸

1 単元名 くらしを守る「事故や事件からくらしを守る」(東京書籍下P20～P31)

2 本時の目標

警察署など関係機関の働きによって安全な生活が守られていることについて、見学して確かめたことや資料から調べたことを基に考え、適切に表現している。(社会的な思考・判断・表現)

3 展開(全10時間 本時5/10)

学 習 活 動	教師の働きかけ(○)と評価【】
1 警察の仕事について、警察本部での見学で確かめたこと、新しく調べたことをメモを基に思い出す。(学級全体)	○ 見学前に個人で決めた確かめてくること、見学の観点について確認し、本時の学習の見通しをもたせる。 ○ 見学したときのメモの内容が、見学の観点以外から書かれているものもある。このため、再度、学習問題と見学に至った経緯を確認し、本時のめあてを設定する。
めあて 見学して確かめたことや調べたことをまとめて、学習問題が解決したのか考えよう。	
2 交通事故が起こったときの警察官の仕事を確認する。(学級全体) ・確かめてくることを基に学習する。 ・新しく調べたことを基に学習する。	○ 事故が起こったときの図を基に、矢印やキーワードを書き込ませ、説明させる。 ○ 個人、ペア、学級全体と説明の形態を変えることで、繰り返し、説明させ、知識の定着を図る。 ○ 警察官の働きについて、努力や願いについて考えさせるために、なぜ、消防署と協力していたのかや通信指令室がある意味を問い、調べたことの相互の関連を考えさせる。
3 交通事故が起こってないときの仕事について確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">警察官の願い(キーワード)の例 ・困っている人を助けたい。(助ける) ・事件や事故をなくしたい。(なくす) ・交通ルールを守って欲しい。(教える)</div>	○ 日頃から、事故がないように取り締まりをしていることや、くらしに困る人が出ないようにパトロールしていることなどを取り上げ、警察官の願いに迫っておく。 ○ 学習問題Iに立ち戻り、警察官の願いを基に警察官の仕事について自分の言葉でまとめさせる際のキーワードを示す。
4 本時の振り返りとして、学習問題Iについて、自分の言葉でまとめる。(個人)	○ キーワードを入れて本時の学習をまとめさせ、ワークシートに記述させる。【評価】
5 学習問題Iの解決について検討する。(学級全体)	○ これで、学習問題が解決したのかを問い、地域の人々の取組について調べることを確認する。

4 本時の評価

評価規準	警察署など関係機関の働きによって安全な生活が守られていることについて、見学して確かめたことや資料から調べたことを基に考え、適切に表現している。 (社会的な思考・判断・表現)		
判断するめやす(判定基準)	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)
	警察の仕事について、警察官の願いを含めてまとめることができている。	警察の仕事について、調べたことを基にまとめることができている。	(B)に達していない記述
→(B)、(C)と判断した児童への支援		→警察官の願いを入れて記述するように促す。	→板書を基に、キーワードについて説明させ、記述を促す。
評価方法	ワークシートの記述		

小学校第4学年 社会科学習指導略案(6時目)

指導者 教育センター 合瀬 一幸

1 単元名 暮らしを守る「事故や事件から暮らしを守る」(東京書籍下P20～P31)

2 本時の目標

地域の人々の協力の様子について、観点に基づいて調査したり、資料を活用したりして、適切に読み取っている。
(資料活用の技能)

3 展開(全10時間 本時6/10)

学 習 活 動	教師の働きかけ(○)と評価【】
1 警察の仕事について、前時までに分かったことを思い出し、めあてをつくる。 (学級全体)	○ 警察の仕事について振り返らせ、私たちの命、財産、家、お金などを守るために、交通事故や事件をなくそうと願っていたことを確認する。その後、学習問題Iに立ち戻らせ、これで解決したのかを問うことで、地域の人への取組へと関心をもたせ、本時のめあてを導く。
めあて 事故や事件から私たちを守るために、地域の人はどうのようことをしてるのか調べよう。	
2 地域の人々の取組を調べる。 (個人、学級全体) ・自分の経験から ・資料から	○ まず、警察の仕事に似ていることを地域の人々がやっていないかを尋ね、児童の経験から予想させる。次に、朝の交通指導の写真を見せ、具体的に地域の人々がどんな人かを写真や資料、教科書を使って読み取らせる。最後に、地域の人が行う様々な取組について、調べさせる。
3 地域の人々の取組の特色や意味について考える。 (個人、ペア、学級全体)	○ 調べさせた地域の人々の取組をそれぞれ関連付けさせるために、「だれが、なぜ行っているか」を観点にまとめていく。その後、警察の仕事との関連に気付かせるために、「私たちの何を守っているのか」を問い、安全を守ることに気付かせていきたい。
4 本時の振り返りとして、本時のめあてについて、自分の言葉でまとめる。 (個人)	○ 地域の人々の取組をまとめるキーワードとして、「自分たちの力で」や「仕事ではなく(ボランティア)」や「町の安全を守る」を使って記述させる。 ○ キーワードを入れて本時の学習をまとめさせ、ワークシートに記述させる。【評価】
5 学習問題Iの解決について検討する。 (学級全体)	○ 学習問題Iに立ち戻り、警察官の仕事と地域の人々の取組の関係に目を向けさせ、「ちがうところ」、「同じところ」を観点にまとめようとする意欲を高める。

4 本時の評価

評価規準	地域の人々の協力の様子について、観点に基づいて調査したり、資料を活用したりして、適切に読み取っている。 (資料活用の技能)		
判断するめやす(判定基準)	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)
	地域の人々の取組を資料から読み取り、取組の意味を考察することができている。	地域の人々の取組を資料や写真から読み取っている。	Bに達していない記述
→(B)、(C)と判断した児童への支援		→調べて分かったことから、意味を考察するように促す。	→資料や写真から分かる人を確認し、取組について読み取らせる。
評価方法	ワークシートの記述		

小学校第4学年 社会科学習指導略案(7時目)

指導者 教育センター 合瀬 一幸

1 単元名 暮らしを守る「事故や事件から暮らしを守る」(東京書籍下P20～P31)

2 本時の目標

公助と共助の違いや、協力体制について気付き、警察と地域の人々の働きの違いを考え、地域の人々の安全な生活が守られていることを表現している。(社会的な思考・判断・表現)

3 展開(全10時間 本時7/10)

学 習 活 動	教師の働きかけ(○)と評価【】
1 地域の人々の活動について、前時までに分かったことを思い出し、めあてをつくる。(学級全体)	○警察の仕事、地域の人々の活動について振り返らせ、私たちの命、財産、家、お金などを守るために、交通事故や事件をなくそうと願っていたことを確認し、本時のめあてへと導く。
めあて 警察官の仕事と地域の人々の活動の違いを調べ、どんな関係なのかを考えよう。	
2 警察官の仕事、地域の人々の活動を確認する。 ・仕事の内容 ・ねがい	○警察官の仕事や地域の人々の活動について、具体的な活動を基に、「助ける」「呼び掛ける」「教える」などをキーワードとして短い言葉で出し合わせる。これらを図に表していくことで、相似点、差異点に気付かせる。
3 警察官の仕事と地域の人々の活動との相似点と差異点を調べる。	○相似点と差異点に分け調べさせることで、相似点が地域の安全を守るために協力することになっていることに気付かせる。
4 警察官の仕事と地域の人々の活動との差異点について考える。	○差異点について、「持ち物」や「できること」をキーワードに考えさせることで、警察官には法やきまりに基づく特権があることに気付かせる。また、警察署見学の際に、大きな地図があったことを想起させ、警察官は、自分たちの地域だけを守っているわけではないことに気付かせる、これにより、公助(仕事としてみんなの安全を守る)と共助(みんなで安全を守る)という違いをまとめていく。
5 本時の振り返りをする。(学級全体)	○キーワードを入れて本時の学習をまとめさせ、ワークシートに記述させる。【評価】 ○学習問題Iに立ち戻り、警察官、地域の人々の活動について解決したことを確認し、本時をまとめる。

4 本時の評価

評価規準	公助と共助の違いや、協力体制について気付き、警察と地域の人々の活動の違いを考え、安全な生活が守られていることを表現している。(社会的な思考・判断・表現)		
判断するめやす(判定基準)	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)
	公助と共助の立場を明らかにしながら、協力して地域の安全を守っていることを記述できている。	警察官と地域の人々の活動の違いについて考え、協力して地域の安全を守っていることを記述できている。	(B)に達していない記述
→(B)、(C)と判断した児童への支援		→調べて分かったことから、意味を考えるように促す。	→板書を基にキーワードを確認し、違いについて読み取らせる。
評価方法	ワークシートの記述		

小学校第4学年 社会科学習指導略案(9時目)

指導者 教育センター 合瀬 一幸

1 単元名 くらしを守る「事故や事件からくらしを守る」(東京書籍下P20～P31)

2 本時の目標

〇〇小校区における事故の防止，撲滅のため，自転車運転免許制度の導入について必要な情報を集めて読み取り，自分の考えをまとめている。 (資料活用の技能)

3 展開(全10時間 本時8/10)

学 習 活 動	教師の働きかけ(○)と評価【】
1 学習問題Ⅱについて確認し，本時のめあてをもつ。 〈学級全体〉	○ 学習問題Ⅱ「〇〇小では，子ども用の自転車運転免許制度ををつくるべきか。」を設定することになった経緯を確認させることで，前時を振り返り，めあてへと導き，意欲付けとする。
めあて 警察官や地域の人々と協力して交通事故をなくすために，私たちにできることを考えよう。	
2 自転車運転免許証の制度について確認し，自分の考えを振り返る。 〈個人・ペア・学級全体〉 賛成と反対の理由について見直す。	○ 賛成と反対の意見があることを確認することで，相手を説得する必要性を感じさせる。 ○ 相手を説得するためには，理由が大切であることを指導し，相手に分かりやすい理由となるためには，データと理由付けが必要であることを指導する。
3 自分の考えを見直し，データと理由付けを強化する。 〈個人〉	○ 自分の考えに足りないところ，補充すべきところを見付けさせるために，ロジックのワークに書き込ませ，補充，補強箇所を見付けさせる。 ○ 補充，補強箇所を埋めるために，資料やこれまでの学習を活用させることで，自分の考えをまとめさせる。 【評価】
4 本時の振り返りとして，学習問題について，現在の自分の考えをワークシートに記述する。 〈個人〉	○ 意図的に，賛否の意思決定についてのみ，発表させ，自分の考えを発表できたことを称賛し，他の児童からの「どうして?」，「わたしは〇〇さんに賛成!」などの発言を取り上げ，次時の討論型の学習への意欲付けをする。

4 本時の評価

評価規準	〇〇小校区における事故の防止，撲滅のため，自転車運転免許制度の導入について必要な情報を集めて読み取り，自分の考えをまとめている。 (資料活用の技能)		
判断するめやす (判定基準)	十分満足な状況(A)	おおむね満足な状況(B)	努力を要する状況(C)
	学習問題Ⅱについての自分の考えを複数の資料を基に理由付けし，まとめることができている。	学習問題Ⅱについての自分の考えを資料を基に理由付けし，まとめることができている。	Bに達していない記述
→(B)，(C)と判断した児童への支援		→他に理由がないか尋ね，複数合った方が説得力があることを告げる。	→自分の考えを補強，補充する資料がないか尋ね，ロジックを基に記述させる。
評価方法	ワークシートの記述		

小学校第4学年 社会科学習指導略案(10時目)

指導者 教育センター 合瀬 一幸

1 単元名 くらしを守る「事故や事件からくらしを守る」(東京書籍下P20～P31)

2 本時の目標

学習問題Ⅱについて、自分の考えを交流し合い、わたしたちにできることを考えることで、将来自分も地域社会の一員として参画しようとする自覚をもつとともに、今の自分にできることを提案したり生活に生かそうとしたりしている。
(社会的事象についての関心・意欲・態度)

3 展開(全10時間 本時10/10)

学 習 活 動	教師の働きかけ(○)と評価【】
1 学習問題Ⅱについて話し合うことを確認し、本時のめあてをつくる。(学級全体) ・学習問題Ⅱを確認する ・学習問題Ⅱについての自分の考えを確認し、賛否両論があることからめあてを決める。	○ 警察の仕事や地域の人々の取組と関連させ、学習問題Ⅱがつけられた背景及び内容を問いながら確認させる。 ○ 学習問題Ⅱに対する自分の考えについて、賛成(赤)、反対(青)の付箋を名札に貼らせることで、視覚化し、話し合う意欲付けを行い、めあてを示す。
めあて 学習問題Ⅱについて自分の考えを出し合い、自分たちにできることを考えよう。	
2 自分の考えを交流する。 (個人・ペア・学級全体) ・個人で発表の練習をする。 ・同じ考えの児童とペア(2～3名)を作り、意見交流する。 ・ちがう考えの児童とペア(2～3名)を作り、意見交流する。 ・学級全体で、賛成、反対で意見を出し合い、理由を共有する。 「安全なくらし」⇔「便利なくらし」	○ 自分の考えを発言する自信をもたせるために、前時のワークシートを基に一度個人で、話す練習をさせる。 ○ ペアでの意見交流は、同じ考え、ちがう考えと段階を追ってさせる。これにより、理由に目を向けさせ、論点を絞らせる。また、感情的な議論にならないようにさせる。 ○ ペアでの意見交流相手をランダムに決めさせる。これにより、意見交流する時間を確保する。その際、時間を制限し、より多くの児童と交流することを促す。 ○ 具体的な理由を出し合わせる中で、賛否の理由の中に含まれる大切にしていることを抽出することで、賛否の理由を明らかにする。
3 最終判断とこれから自分たちにできることを考える。(意思決定2) (個人)	○ 学習問題Ⅱについて、これまで学習したことを基に自分の考えを記述させる。【評価】
4 自分の判断を発表し、本小単元をまとめる。(学級全体)	○ 意図的に、賛否の意思決定やこれからのくらしについて発表させ、称賛することにより、これからの生活でも考え続けてほしいことを伝え、学習をまとめる。

4 本時の評価

評価規準	学習問題Ⅱについて、自分の考えを交流し合い、自分たちにできることを考えることで、地域社会の一員として参画しようとする自覚をもつとともに、今の自分にできることを生活に生かそうとしたりしている。(社会的事象についての関心・意欲・態度)		
判断するめやす(判定基準)	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)
	学習問題Ⅱについて、(B)の記述に、これからの自分の生活で大切にすることを加えている。	学習問題Ⅱについて、根拠を明確にして、意思決定し、記述している。	(B)に達していない記述
→(B)、(C)と判断した児童への支援		→自分が大切にしていきたいことを加えて記述できるように声を掛ける。	→板書を基に、大切にすることは何かを問い、意思決定に結び付けさせる。
評価方法	ワークシートの記述		